

10

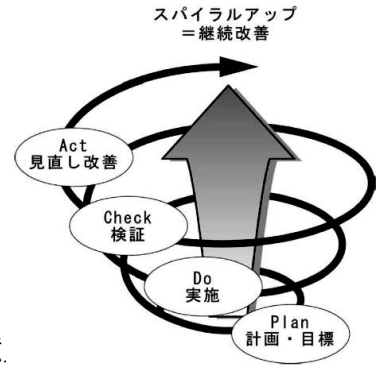
基本構想の推進に向けた取り組み

10.1 バリアフリー基本構想の実現に向けた推進体制

(1) スパイラルアップによる基本構想の推進

本構想では、整備目標を中長期的な視点も含め作成しています。バリアフリー化を取り巻く環境や条件は、日々変化していることから、将来的には社会経済状況や周辺状況の変化などに柔軟に対応していけるよう、必要に応じて基本構想を見直していきます。

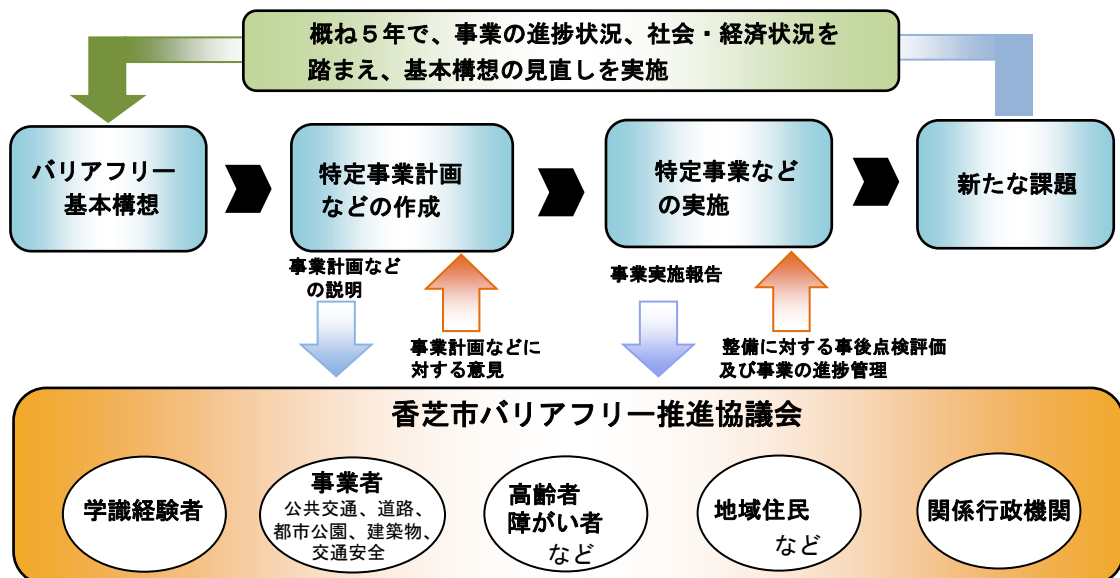
また、計画のみならず事業実施後についても整備内容の点検・評価などの仕組みを確立することが求められます。そして、これらの過程においては、市民など利用者からの意見集約を行いながら、Plan（計画・目標）・Do（実施）・Check（検証）・Act（見直し改善）の継続した取り組み（スパイラルアップ）を実践していきます。



(2) 基本構想の推進体制

基本構想の実現に向けては、各事業者、当事者（高齢者・障がい者など）、地域住民が、互いに協力し、基本構想に位置づけされた事業の着実な実施、評価、改善を図っていくなど、継続的に協議を行っていくことが必要となります。

また、一体性や連続性のあるバリアフリー化を進めていくためには、関係者の連携が重要となることから、行政だけでなく市民・事業者などとの協働によりバリアフリー化が進められるよう、「香芝市バリアフリー推進協議会」にてバリアフリー整備における協議や助言、事後評価を行い、広く市民・利用者への情報提供に努め、バリアフリー整備を継続的に推進していきます。



基本構想推進体制のイメージ